

## さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校 第9期会報 第8号

### 会長挨拶 学友会会長 羽廣 晶子

風薫る5月、ワクワクしながら入学式に臨みました事が昨日の事のように感じられます。入学以来、いろいろな学びをさせていただき、この年に成って新たに学べる喜びを感じられたのではないのでしょうか。クラブ活動での友の出会いに絆を深めたり楽しい事がいろいろあった事と思います。

大きなイベントである文化祭も大成功のうちに終わりました。文化祭の写真部の仕事はまだ続いておりますが、大変お世話に成り感謝しております。楽しかった思いの写真を見るたびに思い出すことでしょう。

先日は学友会2つ目の親睦旅行が催行されました。は私たちを祝福するかのような好天に恵まれ、係りの方の長らく温められた企画は面白くて、バスの中は終始楽しさいっぱいでした。紅葉狩りの季節よろしく「群馬自然史博物館」からの眺めは、青空をバックに群馬の清々しい白い山並みと、そのへんの紅葉とがあいまって譬えようもなく美しく、素晴らしかったです。バスの中からの行きと帰りにも富士がくっきりと見えました事は一層の喜びと成りました。

お世話になりました係の人たちの御努力と企画の面白さに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校」会報のカラー刷りの美しい紙面を手にする度に次号が楽しみです。学友会の行事も残すところ、「卒業記念文集」作りと、「卒業懇親会」のみとなりました。係りの人たちにはお世話に成ります。

### 公開講座 落語 三笑亭 笑三

12月20日おおみや市民会館において「上手な話し方・聞き方」というテーマで三笑亭笑三師匠の落語を聞く。テーマから思うに話術とか間の取り方とか、そういった専門的な講座かと期待して参加したが、講座が高座であったので一寸戸惑ったところもあった。88歳の大長老とは思えない張りのある声で古典落語を語っていただいた。「常に頭の中を空っぽにしてエネルギーを吸収する心構えで、ストレスを持たない生活が長生きの秘訣」



### 雪の小田代原散策 ハイキングクラブ 部長 松井 知之

11月13日(水)春日部駅6時45分に全部員(男性2名・女性2名)が集合し、同駅6時53分発の快速東武日光行きに乗る。乗車中は快適な青空であった。バスで龍頭の滝へ向かう。東照宮あたりは名残の紅葉も見られたが、明智平あたりでは風花が舞う。さすがに山はもうほとんど落葉して冬の季節。滝からは歩きとなり、前夜か今朝に降ったらしき雪があたりのクマザサや道に薄っすらと積もっている。時々雪も降りまた日も差す天気の中を歩く。車道(短い区間であるが)など特に滑らないように足元に気を付け、予定の倍近くの時間をかけて最初の目的地である小田代原着く。小休止後、右手に草紅葉も終わった原を見ながら木道を歩き、12時ごろに泉門池に着く。ベンチもあったので昼食とする。食べ始めると同時に雪が本降りとなり寒さをも感じ、本来なら楽しいはずの食事でも30分ほどで切り上げ先を急ぐ。天候が相変わらずの中を湯川に沿って歩き、湯滝(落差60メートル)に達し、豪快な滝を眺め、少々急な階段を上り、上の湯ノ湖に到着。さらに、湖に沿う遊歩道を始発となる停留所の湯元に向かう。到着とほぼ同時に昼食時と同じように雪の降りが強くなり、良い時に着いたとホットする。



今回のハイキングは確かに場所的には紅葉には遅いと思っていたが、思わぬ雪に会い、冬到来の奥日光の景色を眺められて、これはこれで楽しい思い出となった。

## 史跡めぐり 平林寺

## 幹事 酒井 慶蔵・関谷 謙



晴れ・晴れ・曇雨・晴れ・晴れ。左記の中央(朱書)は今回の天気予報、前回の岩槻史跡めぐりは台風24号の影響で中止となった影響で またか!? 幸い曇りの状態で寒くもなく開催できホットしています(幹事雨男の噂も少し払拭?)。11月25日(月)、当日は参加者18名が11時大宮駅に集合し武蔵野線の新座駅まで移動、昼食後13時に2ヶ月前に予約していたボランティアガイド(3人)と合流し史跡巡りスタート。平林寺までは江戸時代にこの地区を潤した野火止め用水に沿って40分程散策(足に自信のない人はタクシー移動)、平林寺に入場するや真赤に紅葉した境内に圧倒される。人間赤を見ると高揚するものなのか? ガイドさんの説明も半分聞き流し(?)の様相。

目的は史跡巡りなので平林寺の生立ちを簡単に・・・約600年前に岩槻城主の太田備中守が石室善玖禅師を招き岩槻に創建、その後大河内松平家の霊廟となり川越藩主となった松平信綱の遺言により野火止めの地(新座市)に移築(境内は13万坪)現在に至る。ともかく紅葉で高揚し、心も満たされた史跡巡りでした。参加者のご協力に感謝!!

## 私の故郷 上毛 群馬 みどり市

## 1班 関谷 謙

昔々 群馬県と栃木県は「毛の国」と呼ばれており、上毛(かみつけ)、下毛(しもつけ)と呼称していた。群馬県では小学生の頃よりお正月が近付くと県内の名所旧跡・賢人を「上毛(じょうもう)かるた」で練習し 競い 親しんできました。参考までにいくつかを紹介します。(つ)つる舞う形の群馬県 (へ)平和の使い新島譲 (に)日本で最初の富岡製糸 (く)草津よいとこ菓の温泉 (す)裾野は長し赤城山 (き)桐生は日本の機どころ



私の育った所は みどり市(市町村合併で新名称 旧大間々町)桐生市に隣接、赤城山の麓、渡良瀬溪谷鉄道の沿線、渡良瀬川は釣りをしたり・泳いだりした遊び場でした。渡良瀬川は足尾銅山を起点にしており、鉍毒で有名ですが普段は清流、大雨が降ると黄色い濁流がごんごんと流れていたのを思い出します、現在はとてもきれいになっています。足尾にぬける渡良瀬溪谷鉄道及び国道122号の新緑・紅葉は素晴らしいものがあります。

## 我が故郷 「筑波山」つくばさん

## 2班 小山 博

私の田舎の山だ。峰がきれいに二つに分かれて見えて男体山・女体山と呼ばれている。大きくゆったりした方が女体山で、女体の中ほどから陵を伸ばし峰から加波山へ流れる男体山。子供のころ、少し変に思った。何故なら大きい方が男だろう!と。戦時中に生まれた者にとって、男は強く大きいのが当たり前で、戦争に勝つには男は「強く大きいのが有り難い」の時代。戦争に負けたとはいえ、まだまだ男は強くなければ時代を生き抜けなかった。今思うに、子供を産み育てる女性の強さ、大きさを考えると大きくて陵もゆったり流れる女体山は当を得ている。下館、結城、つくばとも言われ、最も恰好よく見えるところ。町はずれを川が流れている。勤行川(ごんぎょうがわ)だ。少年時代下館で過ごした私は、日光から流れ出して筑波山に飲み込まれている勤行川と思いこんでいた。地図の上では、塩原から流れ出し、小貝川に合流、利根川で太平洋に行くのだが、勤行川は日光を出てつくばに向かうのが合っている。信仰心もない私だが、勤行川は有り難い名前だ。結城の人は結城、下館、つくばと言っている。



俳句  
冬ざるる津波の跡の荒野かな  
冬空や皆既月食しかと見る  
木枯しに負けじと生きる 蘇鉄かな  
初御空おだやかなりし日の出かな  
七班 熊倉 征子  
天心へ太鼓打ち込む明けの春  
初春の呵呵大笑の恵比壽様  
紅山茶花日の香をこぼす一の宮  
二班 森 総子

岩槻校卒業懇親会 3月10日 1時~4時 鮎又

卒業懇親会を表記の通り行いますので奮ってご参加ください。

当日各班で素敵な出し物をご用意ください。会費 3,500円